

平成11年度 病害虫発生予察特殊報第2号

病害虫名：ガーベラえそ輪紋病

病原名：トマト黄化えそウイルス（TSWV）

1. 発生の経過

平成11年8月、島しょ地域において、ガラス温室栽培のガーベラにウイルスによるものと推察される生育異常症状を認めた。本施設においては、5月中旬に苗を定植し、異常症状の発症が確認された時期は出蕾期～開花初めであった。また、施設内には、4品種が栽培されていたが、発症が確認されたのは、1品種のみであった。

これらの発症株をトマト黄化えそウイルス（TSWV）、キュウリモザイクウイルス（CMV）、カブモザイクウイルス（TuMV）、ソラマメウルトウイルス（BBWV）、インゲンマメ黄斑モザイクウイルス（BYMV）およびクローバ葉脈黄化ウイルス（CYVV）を対象として、ELISA法により検定を行った。その結果、TSWV抗血清とのみ反応が認められ、いずれの発症株ともにトマト黄化えそウイルスによる「えそ輪紋病」であることが明らかとなった。

ガーベラでの本病の発生は、東京都では初確認である。

その後、本病の拡大は認められていないが、今後の発生に引き続き注意を要する。

2. 症状

葉の一部または全面に、直径は5mm～20mm程度、大小さまざまな、濃淡きわめて明瞭な年輪状の輪紋を生じる。輪紋は株全体のほとんどの葉に発生し、また、新しく展開してくる葉にも次々と形成される（図参照）。

発症葉は、古くなると輪紋周辺が紫褐色を呈したり、黒色、不整形のえそを生じ、やがて全体が黄化する。

発症株は、株全体が小型化し、生育不良となる。

3. 病原ウイルスの諸性質

(1) ウイルス粒子：直径85nm程度の擬球状粒子で、外被膜を持つ。

(2) 伝搬：アザミウマ類（ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ネギアザミウマ、チャノキイロアザミウマ等）により伝搬される。アザミウマ類は幼虫のみが本ウイルスを獲得でき、羽化した保毒成虫により伝搬される。土壌伝染

および接触伝染はしない。

- (3) 宿主植物：本ウイルスは宿主範囲がきわめて広く、650種以上の植物に感染することが報告されている。特に、ナス科、キク科、マメ科では全身感染し、激しい病徴を示すものが多い（表参考）。

4．防除対策

- (1) アザミウマ類の防除を徹底する。アザミウマ類は種によって薬剤感受性が異なるので、防除の際には発生している種類を確認する。
- (2) 圃場周辺ではTSWVの伝染源となる植物を植栽しない（表参考）。また、本ウイルスは広範な雑草に感染しているため、圃場内外の除草を徹底する。
- (3) 発病株はただちに抜き取り、焼却処分する。

* なお、アザミウマ類の種類が不明な場合や、TSWVに感染している疑いがある場合には、病害虫防除所、各農業改良普及センターへ連絡して下さい。

表 TSWVによる病害および感染が確認されている主要農作物*

科名	農作物名(病名)
アカザ科	ホウレンソウ
アルストロメリア科	アルストロメリア
ウリ科	キュウリ(ウイルス病)
カタバミ科	ニチニチソウ(黄化えそ病)
キク科	レタス(黄化えそ病)、キク(えそ病)、ガーベラ(えそ輪紋病) ダリア(輪紋病)、シネラリア(黄化えそ病)、マリーゴールド (黄化えそ病)、キンセンカ、ヒャクニチソウ
クマツヅラ科	パーベナ(黄化えそ病)
ゴマ科	ゴマ
ナス科	トマト(黄化えそ病)、トウガラシ・ピーマン(黄化えそ病) ナス(黄化えそ病)、ペチュニア、タバコ(黄化えそ病)
ツリフネ科	インパチエンス類(黄化えそ病)
マメ科	ラッカセイ(ウイルス病)、ソラマメ、ササゲ、アズキ
ユリ科	ネギ(ウイルス病)
リンドウ科	トルコギキョウ(黄化えそ病)

*日本有用植物病名目録および各県の病害虫発生予察特殊報等から抜粋



図　ガーベラえそ輪紋病の症状